

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学びの力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイム等で、国語や算数の基礎的な学力の定着を図る。	細呂木タイム等で、国語や算数の学習の時間を確保している。	教師	取組指標	90	100	「αドリル」や「計算のたしかめ」を使って計画的に学習を進めているので、基礎的な学力の定着が図れている。「漢字ドリル」や「計算ドリル」を使って反復練習にも取り組んでいる。	今までに引き続き、系統的に「αドリル」や「計算のたしかめ」等を計画・実施し、基礎・基本を徹底させていく。できないところは、家庭での自主学習で復習を促していく。	○自主学習や読書について、昨年度の結果や改善策とあまり変化がない。同じような方法では変わらないのではないかと。保護者からの意見は聞いているのか。PTAとの連携はしているのか。啓発するだけでなく、親にどうしたら良いか考えてもらう機会をもつことも必要。 ○子どもは習い事もあり、家で自主学習や読書の時間を十分にとることはできないが、できる範囲でやっている。読書については、最低時間を提示することで、いろいろな保護者の感覚を一本化することはできないだろうか。10～20分読めば、低学年には十分に思える。 ○親と子の思いの乖離が見られる。親はゲームをしないで本を読んでほしい、子どもはやりたいことがたくさんある。 ○決められた本を読んで、読んだ内容について発表したらどうか。 ○読書は難しい。家族（保護者）が読む姿を見せることで、子どもも自然と読むようになる。
				細呂木タイム等で国語や算数の基礎的な学力の定着を図っている。	教師	取組指標	90	100			
				細呂木タイム等で、国語や算数の学習に頑張っており取り組んでいる。	児童	成果指標	80	98			
				学校が児童に対して実施している国語や算数の基礎学習の取り組みに満足している。	保護者	満足度指標	80	82			
	②	話す・聞く力の育成	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組む。	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100	自分の考えや思いを自分の言葉でのびのびと表現できているが、個人差も広がってきている。	「あさかん」の取組等により、伝える力や受け止める力が着実に向上していると思われるので、継続していきたい。	
				自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることができている。	児童	成果指標	80	92			
	③	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行っている。	教師	取組指標	90	86	対話的な授業に継続して取り組んでいる中、さらに主体的に取り組む授業を作っていく必要がある。	自主的な学習の良さを感じさせる取組を工夫し、積極的に取り組めるように、学校全体で啓発活動に取り組んでいきたい。	
				自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができている。	児童	成果指標	70	95			
				子どもは、自主的に家庭学習に取り組んでいる。	保護者	満足度指標	80	64			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書貯金ノートの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書等、読書習慣の定着につながるような手立てを取っている。	教師	取組指標	90	100	学校では毎日読書時間を十分に確保できている。しかし、家庭での読書につながっていない。	月に一度の親子読書の仕方をいくつか図書だよりで紹介したり、家庭での読書習慣を保護者に啓発したりしていく。	
				自分で設定した冊数以上本を読むことができている。	児童	成果指標	80	79			
				子どもは、読書の習慣が身につけている。	保護者	満足度指標	80	55			
	⑤	ICTの活用	ICTを活用した授業に取り組む。	授業力の向上と授業改善のために、効果的にICTを活用している。	教師	取組指標	90	86	ICTを授業を分かりやすくするツールとして使っていた。ただ、タブレットに関しては、授業の中で効果的に活用されているとはまだいえない。	教員間・学校間で活用方法を共有し、授業に生かしていく。	
				ICTを使った授業で、学習内容がよくわかった。	児童	成果指標	80	97			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
ゆたかな心	⑥	対人関係能力の育成	挨拶運動で個々の振り返りと評価を行う。 ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす。	気持ちの良いあいさつ、正しい言葉づかいや相手のことを思いやる言葉づかいができる子を育てるための指導をしている。	教師	取組指標	90	89	ソーシャルスキルトレーニングにより、より良い人間関係が構築されている。学校が楽しいという児童が多く、友達との関係が良好なことがうかがわれる。また、上級生が下級生のお世話をしたり、優しく接したりする雰囲気や定着している。挨拶については、今大きな声で挨拶することが難しいこともあり、元気がよく挨拶する児童が減っている。学校全体で挨拶指導の場を取り入れることや、コロナ禍であっても教師の意識を高め、いろいろな方法で指導していくことが課題となる。	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを継続し、さらにより良い人間関係づくりを向上させていく。各学級で全ての活動を通して、言葉遣いの指導をしていく。 話し方のきまりを各クラスに掲示する。今後もこうした取組を継続していく。 挨拶については、全校集会等全体の場での挨拶指導や言葉遣いの指導を取り入れていく。そしてクラスにおいては担任による指導をしっかりと行う。また、お便りやアンケートを通して挨拶運動を啓発していく。	
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつ、正しい優しい言葉づかいができています。	児童	成果指標	80	97			
				子どもは、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができています。	保護者	満足度指標	80	88			
				ソーシャルスキルトレーニング等を実施し、子ども同士のよりよい関係づくりに努めている。	教師	取組指標	90	100			
				学校が楽しい。	児童	成果指標	80	99			
				子どもは、学校へ通うのが楽しいと感じている。	保護者	満足度指標	80	99			
				道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない指導をしている。	教師	取組指標	90	100			
				相手の気持ちを考え、相手が嫌がることをしないようにする	児童	成果指標	90	94			
				学校は、子ども一人一人を大切にしている。	保護者	満足度指標	90	95			
	⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む。	学活や道徳の時間、縦割り班活動、体験活動等を通して、自主的に活動し、協力し合うことやお互いを思いやる心を育てるための事前・事後学習を心掛けている。	教師	取組指標	90	100	縦割り班活動や体験活動は、自主性や思いやり、認め合う心を育てるのに有効であった。	今後も、各行事の要として縦割り活動を取り入れ、協力する心や思いやりの心を育てていく。	
				縦割り班活動では、小さい子に優しくできる等、人を思いやる気持ちを大切にしていた。	児童	成果指標	80	100			
				学校での縦割り班活動、体験活動等は、子どもの協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。	保護者	満足度指標	80	97			
	⑧	豊かな感性	豊かな感性を育む。	美しさに触れる活動を通して、豊かな心を育む環境づくりを行っている。	教師	取組指標	90	100	昨年度に比べて、美しいものに触れる体験や活動は減ったが、今までの取り組みの積み重ねや朝の鑑賞活動の継続により、子どもたちの「もの」を見る目や感動する心等が育っている。	今後も、豊かな感性を育てる活動を実施し、感性を刺激していく。その内容を保護者に伝えていく。	
				生活の中で、「いいな」「美しいな」を見つけようとした。	児童	成果指標	80	100			
				学校は、芸術に触れる体験をし、豊かな感性を育てる活動を十分行っている。	保護者	満足度指標	80	92			

○年上の児童が年下の児童の面倒を見る様子がよく見られる。しっかりしていると思う。  
○自分の考えを自由に発言することと、それを受け入れる様子が見られる。朝鑑賞をしていることもあるだろう。

令和3年度 前期 細呂木小学校 学校評価 総合シート

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな体	⑨	基礎体力の向上	体育授業や細呂木タイム(週2回、マラソン、ドッジボール、キックベースボール、ダンス、縄跳び等)において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る。	体育の授業や細呂木タイムで、体力向上を図っている。	教師	取組指標	90	100	体力向上への取組は、特に児童・教師の意識が高く、効果が出ていると考える。	学年便りや学校便り等で、細呂木タイムでの取組や様子を伝え、児童の体力向上についての保護者の関心を高める。	
				体育の授業や細呂木タイムの体力づくりに、がんばった。	児童	成果指標	90	100			
				昨年または年度初めのころと比べ、(細呂木タイムでマラソン、ドッジボール、キックベース、ダンス、縄跳び等を行い)子どもの体力は向上した。	保護者	満足度指標	80	83			
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る。	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努めている。	教師	取組指標	100	100	学校では、いじめ未然防止や早期発見等に努めており、悩み事をすぐに教師や家族に相談できるように配慮している。また、年3回のアンケートや教育相談週間の実施により、問題の早期発見に努めている。	日頃から、いじめ対策チームを組織運営し、全体で児童の状況把握に努め、チームで対応する。学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。教師の目に見えないところで起きていること、悩みを打ち明けられない児童について情報収集し、早期発見・解決できるようにする。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友だち、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	児童	成果指標	95	95			
				我が子に関して、学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	保護者	満足度指標	95	96			
	⑪	生活習慣(食育を含む)	日常的健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、給食週間等での望ましい食習慣等)。	日常的健康習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	日常的健康習慣は、ほぼ身につけていると思われるが、食のマナーについては、家庭と連携して指導していくことが課題となっている。	日常的健康習慣づくりの指導を今後も継続していく。	
				朝の清潔検査・歯みがき・食のマナーを守ることができた。	児童	成果指標	80	98			
				子どもには、学校での日常的健康習慣づくり(清潔チェック・歯みがき・食のマナー等)の指導が役立っている。	保護者	満足度指標	80	81			
	⑫	情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣づくり、指導する。	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	83	学年の応じたインターネットやSNS等の利用のルールについて話し合う時間が不十分だった。	日頃から、インターネットやSNSの使い方やゲームの仕方について、声かけをする。また、学活の時間等を使って、ルールについて考える機会をもつ。	
				ネット利用やテレビ、ゲームの時間等、約束したことを守ることができた。	児童	成果指標	80	90			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりが、できている。	保護者	満足度指標	80	87			

○タブレット端末の持ち帰りに際し、どのように活用していくのか。ルール・モラルの点で重要な課題がある。

○タブレット使用の注意事項は学校で行っていく必要があるが、家に持ち帰ってしまえば、本人が管理するしかない。家での機器のようにセキュリティを高く設定することも難しい。これからの世の中は、自分で管理していかなければならないから、失敗しながら身に付けていくことになると思う。

○小さい時からの教育が必要になっていく。規制の方法等も、学校と親が共有していくことが必要だが、なかなか難しい。

○細呂木小学校に児童に食物アレルギー児童はいないが、アレルギーの児童がいた場合の対応については、給食センターでの対応がしっかりとできている。

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
開かれた学校・地域との連携	⑬	ふるさと教育	地域にある文化財や地域行事等を活用したふるさと教育を行っている。	地域にある文化財や地域行事等を活用したふるさと教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	取り組みは行っているが、子どもたちの自主的、主体的な学びという面では、十分ではない部分がある。また、コロナ禍の中、地域の行事も縮小している点も考慮しなくてはならない。	体験にとどまらず、地域のよさに気付くような事前・事後学習をしっかりと行う。	○地域に出て行き活動することをいくつも実践している。地域とともに学校で学ぶことができるとよい。 ○地域の方に学校に来てもらうためには、まず行事のお便りを地域にも配ってどうか。区の配付物にも入れて周知するところから。 ○ボランティア募集についても区の配布物に入れて配る。区長会で、配付物を分ける時に一番上にしてもらうように依頼する。真ん中にあっても見ない。
				地域の学習に参加して、地域に興味があった。	児童	成果指標	90	97			
				子どもは、地域の学習に進んで参加している。	保護者	満足度指標	80	94			
	⑭	積極的な情報発信	学校だより・学年通信・保健だより・図書だより（月1回以上発行）、ホームページで、学校・児童の情報発信を積極的に行う。	学校だより・学年通信・保健だより・図書だよりを月1回以上発行し、学校・児童の情報発信を積極的に行っている。	教師	取組指標	90	100	学年通信をカラー印刷にし、情報発信を積極的に行った。また、学校だより・ホームページ等でも学校の様子を伝え、保護者の満足度も高かった。	今後も情報発信を積極的に行い、家庭との連携を充実していく。より様子が分かるように、ホームページを充実し、各学年の様子が分かるようにする。	
				学校だより・学年通信・保健だより・図書だより、ホームページで、子どもたちの様子がわかる。	保護者	満足度指標	85	88			
⑮	連携の質向上（家庭・地域・学校の連携）	校区内の各地域や外部関係機関、子ども園、他校（小中学校）との密接な情報交換と連携に努め、連携の質を高める。	地域と関わる活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	88	地域の方々の協力を得て、地域に根ざした諸活動が多く実践されている。ただ、コロナ禍で活動に制限がかかっている。	今後、地域と関わる活動を計画的に行い、その様子を発信していく。		
			見守り活動や奉仕活動等に参加する等、地域や家庭として学校行事等に関われることについて考えた。	保護者	満足度指標	80	81				